



第3期事例集

在宅高齢者の要介護状態改善事業

ふくおか 元気向上 チャレンジ

住み慣れた地域で
安心して暮らしていけるよう
福岡市はあなたを応援します！



お問い合わせ先

福岡市福祉局高齢社会部介護保険課（重度化防止推進担当）

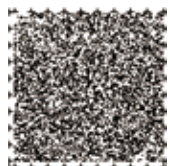
〒810-8620 福岡市中央区天神 1-8-1

☎ 092-733-5452 ☎ 092-726-3328

✉ kaigohoken.PWB@city.fukuoka.lg.jp

ふくおか元気向上チャレンジ【第3期事例集】発行 / 令和7年11月

ふくおか元気向上チャレンジホームページはこちら ▼

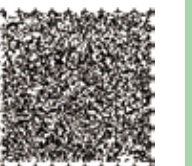


検索はこちらから

ふくおか元気向上チャレンジ

検索

スマホ・パソコンで
簡単アクセス！



スマートフォン等のアプリ
〈Uni-Voice〉により、この音声
コードを読み取ることができます



ふくおか元気向上チャレンジとは？

100歳を超えて生きる。そんな暮らしが当たり前となるこれからの時代。
誰もが心身ともに健康で自分らしく活躍できる社会を目指して、この事業を実施しています。

事業概要

この事業は、利用者や介護事業所を1つのチームとして、要介護度や日常生活動作（ADL）等の改善を目指していただき、そのチームとしての取り組みや成果を評価し、表彰や認証などのインセンティブをお渡しすることで、更なる重度化防止に対する意識・意欲の向上や介護サービスの質の向上に繋げていくものです。

参加したら何をするのか

利用者の「したい」「やりたい」目標を設定します。
（すでに目標を設定されている方の場合、必ずしもその目標を変更する必要はありません。）
目標の実現に向け、利用者と介護事業所が一緒になって、要介護度や日常生活動作（ADL）等の改善に取り組んでいただきます。

「したい」「やりたい」（目標）とは何か

◆◆ 利用者が真に希望する想いのことです ◆◆
例

- ◆ 元気になって遠方の家族に会いに行きたい
- ◆ 家族と一緒においしいものを食べたい
- ◆ 以前のように趣味や買い物をして、1人で外出できるようになりたい など

第4期参加募集について

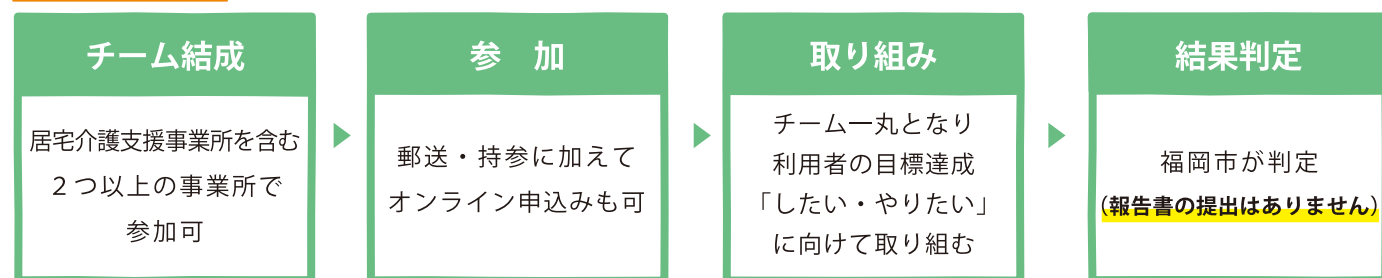
参加申込受付期間

令和7年6月から12月末まで

取組期間

参加申込後令和8年6月末まで

参加の流れ



判定後、利用者と介護事業所へインセンティブを交付します

参加要件

参加には介護事業所による所定の手続きが必要です。

利用者

- 在宅系サービスを利用している福岡市の介護保険被保険者
- 参加申込時点において要介護1から要介護5までの認定を受けている方
- 個人情報の取扱いに同意いただける方
- その他、次のいずれにも該当しない方
 - ・ 直近の要介護認定結果と比較して、すでに参加申込時点において心身の状態に著しく改善がある方
 - ・ 給付制限等の対象になっている方

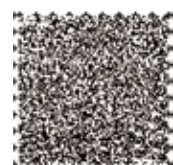
介護事業所

- 在宅系サービスを提供する福岡市内に所在する介護保険指定事業所
- ※令和6年4月1日以降に、介護保険法に基づく勧告以上の行政指導または行政処分を受けている介護事業所は、参加できません。

評価方法

原則、参加申込時点と取組期間終了時点における直近の要介護認定の情報をもとに福岡市が判定します。くわしくはホームページをご覧ください。

事業所にはキーホルダーとステッカー、ポスターを利用者にはキーホルダーをお渡し、皆さんのチャレンジを応援します！



第3期の実績

令和6年6月より募集をスタート、19チーム、延べ73事業所の皆さまにご参加いただきました。参加チームの皆さまにおいて、要介護状態の改善、維持に向けた取り組みを実施され、以下のような結果となりました。

	金賞	4チーム
	銀賞	4チーム
	銅賞	3チーム
	チャレンジ賞	6チーム

ご参加いただいた多くの利用者が、要介護度の改善・維持を実現しました。
利用者と介護サービス事業所の皆様の努力が、こうした素晴らしい成果に繋がりました。



※ 2チームは都合により途中で辞退。
※ 第3期判定基準内容についてはホームページをご覧ください。

第3期インセンティブ

掲載は一例です。くわしくはホームページをご覧ください。
また、記念品は来年度以降変更する可能性があります。



★ 表彰状



★ 金賞を受賞した利用者への記念品
(ハンディファン・ステンレスボトル・名入箸からいずれか1つ)



★ 参加記念品 他
(エコバッグ)

第3期金賞受賞者の表彰式を開催

金賞受賞チームを表彰式において表彰。
また、表彰式に合わせて重度化防止に関する講演会を開催！

- 日時 令和7年11月8日(土) 13:30～15:30
- 会場 アクロス福岡 1F 円形ホール
- 1部 表彰式
- 2部 講演会『ごぼう先生のいきいき体操講座』



ふくおか元気向上チャレンジ ホームページのご案内

福岡市ホームページでは、これまでの受賞チームの取組紹介や、表彰式・講演会の様子などを掲載しています。また、より参加していただきやすくなるよう見直した内容も詳しく掲載しています。
こちらから参加申込みも可能ですので、ぜひご覧ください！

事例紹介

これまで発行した事例集を、スマートフォンやパソコンで手軽に閲覧できます。過去の事例を参考にしたい方などにオススメです。



表彰式・講演会の様子



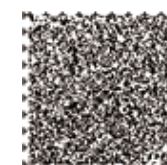
スマホ・パソコンで
簡単アクセス！



検索はこちらから

ふくおか元気向上チャレンジ

検索



自分の足で歩いて 坂の上からあの景色を眺めたい

～ みんなで支え合った2度目の挑戦 ～

＊ 訪問看護リハビリステーション Coco を中心としたチームケア ＊

江村 和広さん (80)

要介護5 ▶ 要介護4

脳梗塞の後遺症で右半身に麻痺が残り、自宅での生活に不安を抱えていた江村さん。在宅での挑戦を続ける中で、今回2回目のチャレンジで見事金賞を受賞されました。



前列左から 塚本さん 江村さん 奥様 / 後列左から 吉川さん 本田さん 手塚さん

取組み POINT

医療と介護が連携し、身体機能の回復とご家族への支援の両立を図りました。リハビリでは、歩行やバランス訓練等を実施し、ご家族にも丁寧に指導。看護では、排泄管理や心理面へのサポートを行い、チャットアプリを活用した情報共有で連携を強化。安心して過ごせる生活環境づくりを支えました。

取組み中

介護の限界に直面した日々

『歩けるはずなのに、体がついてこない』

脳梗塞で入院した江村さんは、後遺症により右半身に麻痺が残り、車いすですぐに自宅に戻りました。

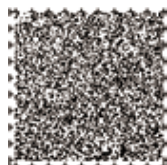
住み慣れた家に帰っても、歩くことも立ち上がることもままならない状態。自力で立ち上がろうとするたびに転倒の危険があり、江村さんは「前へ進みたい気持ち」と「動かない体」とのギャップに、葛藤を抱えていました。

『奥様も抱えきれない不安に』

不安や葛藤を抱えていたのは、本人だけではなく。介護を担う奥様もまた、どうしていいかわからず不安に押しつぶされそうになっていました。

「1日でも、1分でも…。主人も私も少しでも良くなって欲しいという気持ちでした」（奥様）

夫婦二人だけでは支えきれない状況の中、すがるような思いで在宅介護サービスが始まったのです。



本人の意欲と家族を支えたチームケア

『多職種が一丸となった支援体制』

訪問看護（リハビリ）に加え、福祉用具の導入、さらにケアマネジャーとの連携によって生活を支える体制を構築。チャットアプリも活用し、体調不良や奥様の疲労など、細かな情報をリアルタイムで共有しながら、状況に応じて迅速に対応できる仕組みが整えられていきました。

「大変な場面もありました。でも塚本さん、本田さん（訪問看護スタッフ）の熱意が強く、ご本人の意思を尊重しながら、奥様の負担もなるべく減らそうとチーム皆で支えました。」（ケアマネジャー吉川さん）



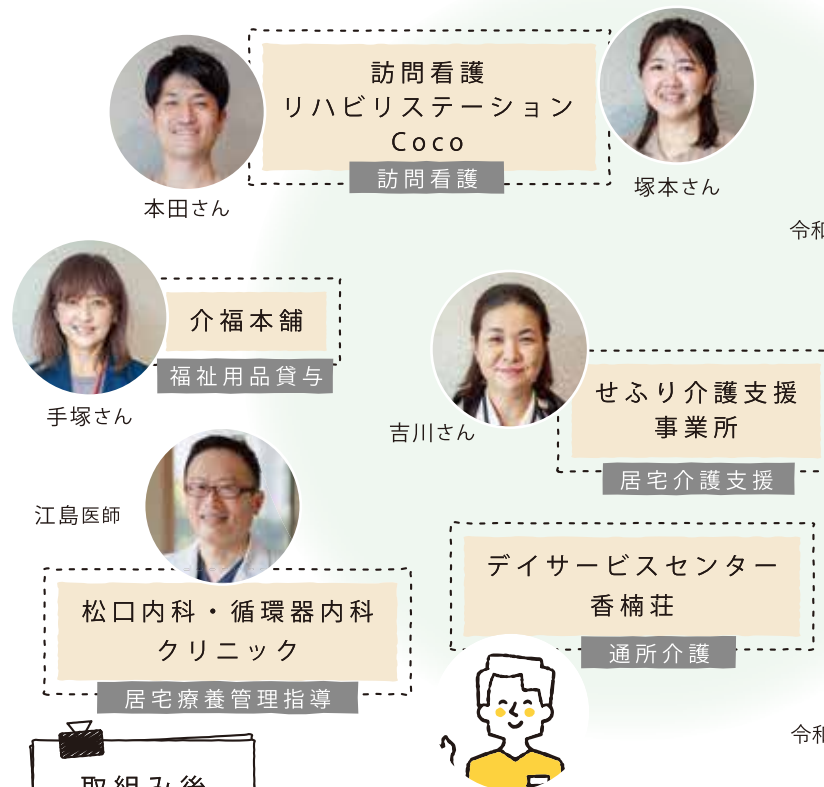
『心に寄り添うチームケアのかたち』

リハビリでは、離床時間の確保から介助方法の指導を行い、歩行やバランス訓練、坂道歩行など実践的な支援を展開。ご家族へは転倒時の対応や介助のコツを伝え、安心して介護に臨めるよう支えました。看護では、排便管理や健康面の見守りに加え、ご夫妻の生活リズムを尊重しながら、心にも寄り添いました。また、デイサービスとも連携し、移動方法の統一や過ごし方などを情報共有。さらに、医師とも連携し、異常時の早期対応や治療内容の変更にも迅速に対応しました。穏やかに過ごせる日々の実現に向けた取り組みでした。

『生活リズムを尊重しながらの支援』

その都度工夫を重ね、ご本人の自立心を尊重しつつ、支援チーム全体で安心してサポートできる体制を整えたことで、江村さんは少しずつ生活のリズムを取り戻し、自宅での動作も改善していきました。近くのショッピングモールやカラオケなど、ご家族の協力のもと、可能なレベルでの外出の機会も設けることで、外出に対する意欲をキープすることができました。「春には桜を見に近くの公園へお散歩にも行けました。」（奥様）

チームケア体制



小さな自信と家族の支えが生んだ成果

『目標を達成』

ご本人の意思と周囲の支えにより、早い段階から自宅内での移動などに改善が見られました。そして目標としていた「自分の足で坂の上からあの景色を眺めること」を、ご家族の協力もあり実現することができました。さらに奥様の誕生日には、ご家族そろってカラオケを楽しむ時間もあり、ささやかな日常の喜びを分かち合いました。

『少しの自信と安堵』

大きな目標を達成したというよりも、できなかったことが少しできるようになったという積み重ねが、ご本人に小さな自信を、奥様には「少し楽になった」という安堵をもたらしました。

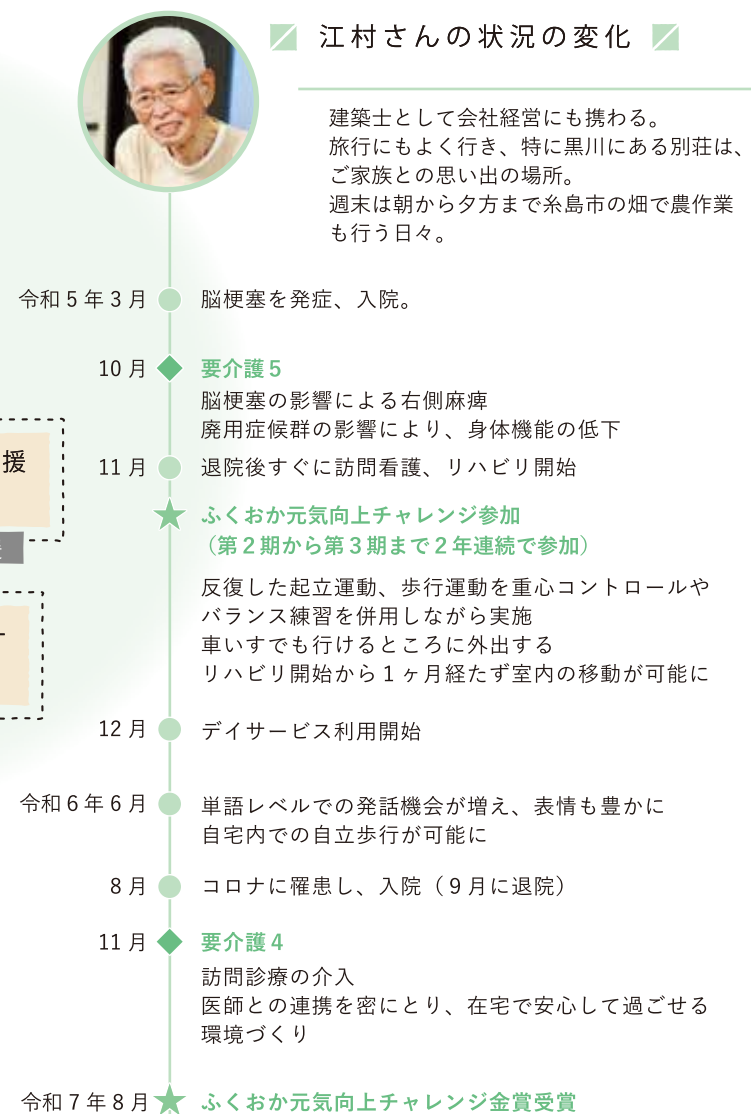
『家族とスタッフの協力』

奥様は「一喜一憂しながらでしたが、できなかったことができるようになる喜びを一緒に感じられた」と語ります。必死に支え合う日々の積み重ねが、今回の金賞という成果につながりました。困難な状況でも、スタッフが江村さんにご家族を丁寧かつ迅速に支えたことで、江村さんも少しずつチャレンジを重ね、日常に小さな変化を積み上げていくことができました。

お誕生日のお祝いにお花のプレゼント



江村さんの状況の変化



NEXT
STEP

新しい家庭のかたちの中で

今後の目標について、奥様は「食べる楽しみを少しずつ取り戻していきたい。それができたら、家族での外出や食事の時間も増やしていきたい」と話します。現在はゼリー食ですが、訓練を続けながら少しずつ食べる楽しみを感じられるように取り組んでいます。江村さんも「もつ鍋を食べたい」と希望を語り、前向きな気持ちを見せています。在宅でのチャレンジを経て、江村さんは肺炎罹患による入院をきっかけに、現在は医療的ケアが受けられる老人ホームに入居しています。奥様は「毎日面会に行き、新しいかたちで家庭を築いています」と語ります。住まいの場は変わりましたが、ご家族の支え合いと、これまで積み重ねてきた日々の歩みは、これからも続いていきます。



行きたい場所があるから・・・ 私らしく再び働く

～ 取り戻した日常と笑顔、その先にある自信 ～

＊ 福リハデイケア西都を中心としたチームケア ＊

坂本 一登さん (66)

要介護3 ▶ 要支援2

糖尿病による左下腿切断で義足となり、要介護3と認定された坂本さん。「再び歩ける確率は20%程度」と主治医に告げられながらも、「そんなはずはない」と心の中で否定し、リハビリに挑戦する決意を固めてのチャレンジ。見事金賞を受賞されました。



左から 坂本さん 福川さん

取組み POINT

坂本さんの「やりたい」を原動力に、生活全体を見据えた支援を展開しました。本人の目標や体調に合わせてリハビリ内容を柔軟に調整し、スタッフが伴走者として寄り添い続けました。その挑戦を支える過程で職員も多くを学び、前向きなエネルギーが事業所全体に広がりました。

取組み前

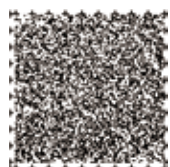
歩くことを諦めない

坂本さんは学生時代、バスケットボールに熱中し、社会人になってからは旅行やオートバイ、ボウリングと常にアクティブに過ごしてきました。(ちなみにボウリングの最高スコアは300！)

ユーモアあふれる性格も相まって、困難に直面しても「まあ何とかできるだろう」と前を向く強さを失わず、その姿勢はリハビリ生活でも変わりませんでした。

「自分の経験が、同じような境遇の人の力になれば…」

その思いが、今回のチャレンジに参加する大きなきっかけとなりました。要介護3の認定が出てからも、坂本さんはよくよくすることなく「できるようになったこと」をひとつずつ喜びに変えながら前へ進み続けていました。



取組み中

目標に向かって取り組む日々

『若い人からエネルギーをもらって』

「歩けるようになって、また旅行に行きたい」その強い思いで、退院後はケアマネジャーの紹介のもと、自宅近くの福リハデイケア西都で、週5日のリハビリを継続しました。

福リハデイケア西都は、若いスタッフが多く、学生もリハビリに訪れ、明るく活気のある雰囲気。坂本さんは、「エネルギーをもらっています」と笑顔で語ります。

そのエネルギーに自然と励まされ、前向きに取り組めることが、大きな力になりました。「ここはお菓子もお茶も出ない。きついことばかりなのに、最高なんですよ」(坂本さん) リハビリ後のマッサージや、スタッフとの会話から体の知識も深め、自宅にはエルゴメーターを導入し、毎日20分欠かさず継続しました。

『家族の支え』

奥様もまた大きな支えでした。足のマッサージや、糖尿病に配慮した食事管理で日常を支え続けました。さらに、奥様自身も前向きでポジティブな性格。坂本さんに力を与えました。「それが一番です」と坂本さんは笑顔で語り、奥様への感謝を強調しました。



チームケア体制



取組み後

要介護3 から要支援2 へ

・・・そして仕事復帰

『当然と言い切れるほどの努力』

地道な努力と周囲の支えにより、坂本さんは要介護3から要支援2へと改善しました。福川さんは「日頃の頑張りを見ていたので、結果を聞いた時も『当然だろう』と思えるくらいでした」と振り返ります。

『挑戦を続ける力』

退院からわずか半年で仕事に復帰。現在は結婚式の送迎業務などを担い、「扉を開けるための乗り降りに少し時間がかかるくらい。運転自体は問題ないです」と笑顔で語ります。

実は、退院翌月には石垣島へ旅行。砂浜を歩くことは難しかったものの、海を眺めるひとときは大きな喜びでした。その後に訪れた富良野では、山道に挑戦。「死ぬかと思うほどきつかった」と苦笑しながらも、歩き切ったことがリハビリになり、次への自信にもつながりました。



持ち運びに便利な折りたたみ式のロフトランド杖を愛用

坂本さんの状況の変化

大型貸切バスの運転手として九州のみならず関東まで赴くことも。海外旅行に国内旅行と、元添乗員の奥様とともに旅先の景色や食を楽しみながらアクティブに暮らす。

平成13年 ● 糖尿病を発症 糖尿病内科に通院

令和6年3月 ● 大型バスの運転手を退職

令和6年4月 ● 左足Ⅱ型糖尿病壊疽 左下腿切断

5月 ◆ **要介護3**
リハビリ病院を退院(義足をつけて退院) 杖歩行

7月 ● 通所リハビリテーション利用開始

8月 ★ **ふくおか元気向上チャレンジ参加**
有酸素運動・筋力増強運動
ゴムバンドや機械を使用した下肢・体幹の筋力トレーニング
義足での立ち上がり・歩行・方向転換などの動作練習
自宅でもエルゴメーターを購入し、自主トレーニング

9月 ● 状態が改善し、仕事復帰。県外での送迎も行う(結婚式の送迎バス)

令和7年6月 ◆ **要支援2**
週に2回のリハビリと、自宅でも毎日リハビリを継続
夫婦で富良野へ旅行

令和7年8月 ★ **ふくおか元気向上チャレンジ**
金賞受賞

NEXT STEP

旅行もリハビリ

リハビリを重ねた今では、杖をつきながら歩く後ろ姿は義足とは思えないほど自然で安定した足取り。187センチの大きな体をしっかり支え、一步一步に力強さが感じられます。

「旅行に行くために仕事をする。それくらい旅行が一番の目的なんです」そう語る坂本さんの笑顔には、これからの楽しみがにじんでいました。

今後は静岡や金沢、そして再び石垣島へと足を伸ばす予定です。坂道や空港の長い通路に苦勞することもあります。現在の坂本さんにとって、旅行は単なる娯楽ではなく、「歩くことを続けるための実践の場」＝リハビリになっています。

要介護3から要支援2へと改善した歩みは、決して大げさな奇跡ではなく、毎日の努力と家族・スタッフの支えの積み重ねでした。

「できるようになったことを少しずつ重ねていく」

その一步一步が人生を前向きに変えていくことを、坂本さんの姿は教えてくれます。



人生を有意義に過ごしたい その時の「やりたい」を大切に

～ 「人生を楽しむ“歩み”」を取り戻して ～

＊ ミラクルデイサービスはこざきを中心としたチームケア ＊

中野 日出男さん (70)

要介護4 ▶ 要支援2

福岡への移住を目前に控え、エスカレーターから転落し、大けがを負った中野さん。新しい生活のスタートが一時は遠のいたかに見えましたが、持ち前の前向きさで挑戦を続け、見事金賞を受賞されました。

取組み前

第二の人生に思わぬ転機

『人生は死ぬまでのひまつぶし』

中野さんは学生時代、落語に熱中し、全国大会で上位入賞した経験を持つ、“お話の名人”です。モットーは「人生は死ぬまでのひまつぶし」。一見ユーモラスに聞こえますが、「限られた時間をどう楽しむか」という前向きな意味で捉え、人生の道しるべとしています。「要介護4になったことも“人生のひとつの経験”と受け止め、深刻に考えませんでした。良いことも悪いことも、すべては暇つぶしの一部だと思っています。」

この言葉には、前向きな姿勢と自分らしく生きようとする人生観が表れています。

中野さんは50代の頃、仕事で福岡市や大牟田市に住んだ経験があり、「食べ物も美味しい、人も温かい。住むなら福岡がいい」と思い、地元埼玉を離れ、福岡で暮らす準備を進めていました。

ところがその矢先、エスカレーターから転落。頸髄損傷や骨折という大けがを負いました。埼玉の病院を退院した

その日に福岡へ。新しい生活のスタートと同時に介護サービスの利用が始まりました。



左から 中野さん 木村さん

取組み POINT

チームが連携し、生活の中に楽しみを取り戻す支援を行いました。「体調自己管理ノート」を活用し、チーム内で情報共有を図りながら、トレーニングや歩行訓練等を実施。ワクワクする通所計画をもとに継続し、食べ歩きを再び楽しめるまでに回復しました。

取組み中

目標に向かって取り組む日々

『チームで支える、“歩く力”と日常の楽しみ』

中野さんを支えるのは、居宅介護支援事業所を軸に、地域密着型通所介護・訪問看護・訪問介護・福祉用具貸与のチームでした。「体調自己管理ノート」を使って、生活や状態をその都度確認し、チームで共有。中野さんの目標に向かってチームが動きました。「マイナスなことはひとつもありません。本当に良くしてもらいました」と中野さんは話します。家の中には手すりを設置し、安全に動ける環境を整え、各サービスでは次のような支援が行われました。

【地域密着型通所介護】

運動器具を使ったトレーニングで体力づくりと歩行機能の改善

【訪問看護】薬や食事の管理、糖尿病の合併症予防

【訪問介護】掃除や洗濯、買い物を支援しつつ、自分でできることは継続できるよう工夫

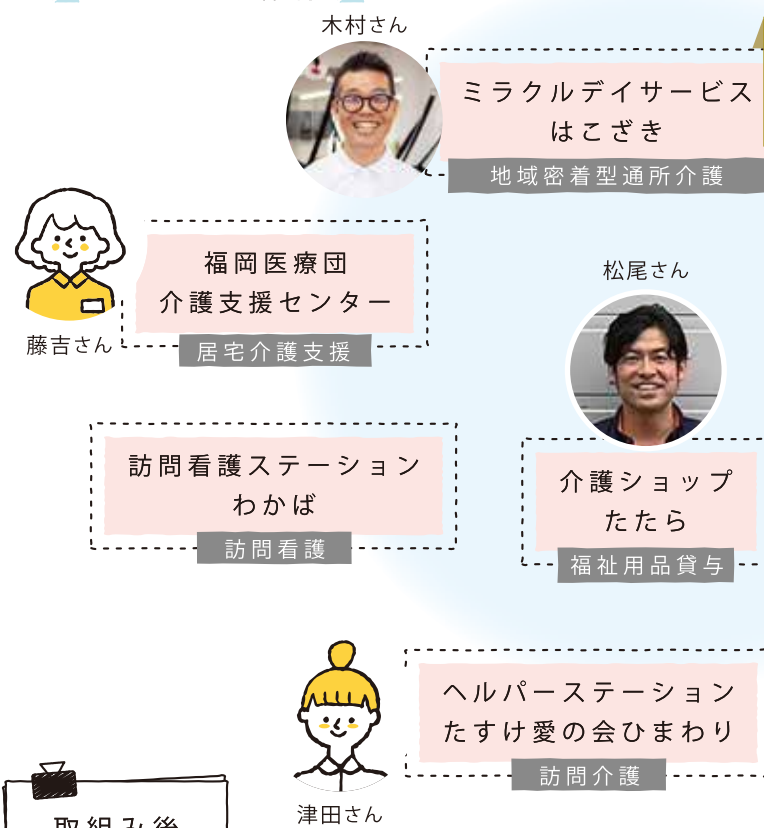
「ワクワクや楽しみがもてる計画を立て、日常を支える“歩く”ことを大切にしています。」(ミラクルデイサービスはこざき・木村さん)

デイサービスで30分歩く時間は、覚えた落語のネタを頭の中で繰り返すなど、落語経験を生かした中野さんらしい工夫が、訓練を続ける力になっていました。

体調自己管理ノート▶



チームケア体制



取組み後

楽しみを力に変えて

『不安を乗り越え一歩ずつ前に』

もう一つの楽しみとなったのが食べ歩き。好きな食べ物を聞かれると「〇〇のラーメン」「焼肉店のカレー」など、お店の名前や提供時間まで出るほど具体的で、グルメ通ならではのこだわりがうかがえます。その“食べ歩きトーク”は他の利用者との交流のきっかけにもなり、楽しみを力に変えて、今では実際に食べ歩きを楽しめるまでに回復しました。

さらに、自宅では毎日スクワットや股関節の痛みを和らげる体操で、体力づくりも続けています。チャレンジのチームスローガンとしていた「今を楽しむ力を共に実現しつづけるチームに!」

その言葉の通り、スタッフ一人ひとりが目標を意識し、それぞれの役割を果たすことで、中野さんの歩みを支えてきました。

この取り組みは、在宅介護が「生活を支える」だけでなく、その人らしい暮らしを取り戻し、人生を楽しむ力へとつながることを教えてくれます。

今回の取り組みを支えた木村さんは、事業所として2回目の金賞受賞。「取り組みを通して、チームケアの意識が更に高まったと思います。それが一番です。」と強調しました。



中野さんの状況の変化



福岡市、大牟田市での勤務経験のある中野さん。常に「充実した人生を送りたい」という前向きな思いを胸に食べ歩きや落語を楽しむながらの日々。福岡の街や食の魅力が忘れられず、退職を機に「福岡で暮らそう」と埼玉からの移住を決意。

令和5年6月 埼玉県から福岡県に転居準備を進める中、外出先でエスカレーターから転落、救急搬送
頸髄損傷、四肢不全麻痺等のためリハビリ実施

要介護4

令和6年1月 入院中に転居準備を完了させ、退院したその日に福岡へ移住

介護サービス利用開始

11月 ★ ふくおか元気向上チャレンジ参加

屋外では歩行器を使用
バスの乗車訓練など実践に即した訓練を行う
日常生活が行えるようプログラム作成

令和7年1月 ◆ 要支援2

令和7年8月 地元に戻ってお墓参りをする

★ ふくおか元気向上チャレンジ金賞受賞

NEXT STEP

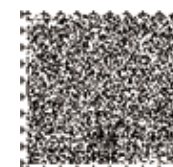
挑戦の先にある新しい夢

「全盛期は落語のネタは25くらいあったけど、即興でできるのは5つくらいかな。」と語る中野さん。落語は今も人生に寄り添う存在であり、心の支えにもなっています。そして、これからの目標も、どれも“楽しむこと”につながっています。

「美味しいものを食べたい」という思いは変わらず、日々の食べ歩きが大きな楽しみです。また「地元（埼玉）に帰ってお墓参りをしたい」という目標もすでに実現し、次の計画も進んでいます。

さらに「いずれは車の運転を再開したい」とのこと。

「黒川温泉に行きたいですね」と笑顔で新たな夢を語り、未来への楽しみを広げています。



店先に立つ喜びをもう一度 八百屋のある暮らし

～ 人とのつながりに支えられた挑戦 ～

* 白十字リハビリテーション病院通所リハビリテーションを 中心としたチームケア *

清水 和子さん (72)

要介護4 ▶ 要介護1

息子さんと15年間、地域に根ざした青果店を営んできた清水さん。経営を引き継いだご友人が続ける青果店の店番として、常連客を迎える日々でしたが、突然の急性大動脈解離で倒れます。これまでの生活が突然途切れてしまったかのようにでしたが、「もう一度、店に立ちたい」という強い思いを糧に在宅での挑戦を重ね、今回のチャレンジで金賞を受賞されました。



前列左から 國友さん 清水さん 鹿島さん / 後列左から 緒方さん 浜本さん 竹田さん 日高さん

取組み前

突然の発症と

「八百屋に立ちたい」思い

『一瞬で途切れた日常』

地域の常連客に囲まれて青果店に立つことは、清水さんにとって生きがいであり、生活の中心でした。ほがらかで明るい人柄もあり、常連客との会話はいつも笑顔にあふれていました。しかし、ある日突然、店先で倒れ救急搬送。診断は急性大動脈解離。意識の戻らない時間もあり、ご家族には「普通には回復しないだろう」と告げられる厳しい状況でした。「入院中は、このまま動けないんじゃないかと悲しくて涙が止まりませんでした」（清水さん）

『あの場所にもう一度戻りたい』

それでも胸にあり続けたのは、「もう一度八百屋に立ちたい」という強い思い。また、夫や息子の食事を自分が準備したいという思いもありました。家族のため、そしてお店で待つ友人への責任、自分の生きがいを守るためにも、退院後の生活をどう築くかが大きな課題となったのです。

こうして動き出したのが、「春には仕事復帰」という明確な目標を軸にした在宅でのリハビリ体制です。ケアマネジャーを中心に多職種が連携し、生活の一つひとつを支えながら、再び青果店に立つための挑戦が始まりました。



取組み POINT

居宅介護支援事業所を軸に、チームで連携し、ご本人の意向と生活に即した支援を実施。短期間の集中的なリハビリで体力・歩行能力を高め、福祉用具事貸与業所と連携して屋外用歩行器を導入。自宅での使用確認やご家族への指導も行い、チーム全体で挑戦を支えながら、目標の実現を力強く後押ししました。

取組み中

支え合いの中で取り戻した一歩ずつの前進

『わずかな距離が大きな壁に』

退院後、通所リハビリテーションで3か月間の短期集中個別リハビリをスタート。その中には、自宅環境や青果店までの移動を想定した、実践的な歩行訓練も含まれていました。「ほんのわずかな距離がとても長く感じられました」（清水さん）

家から青果店までは50メートルほどの距離ですが、以前は何気なく歩いていた道も、段差や小さな坂が立ち上がり、大きな壁のように感じられたと振り返ります。

『一歩ずつ前進』

清水さんを支えたのは、通所リハビリテーションの國友さんをはじめ、多職種のチームでした。「丁寧に説明を重ね、段階を踏んで進めることを心がけました」と國友さんは振り返ります。新しい運動や負荷のかかる運動に取り組む際には、慎重な性格の清水さんが安心して挑戦できるよう、気持ちに寄り添いながら支援を続けたことが、着実な前進につながっていききました。

また、訪問看護や福祉用具貸与の担当者は、歩行や日常生活の動作を多角的にサポート。ご家族には介助方法を丁寧に伝え、家庭でのケアがより安全で安心できるものとなるよう工夫しました。こうした専門職と家族の協力体制があったからこそ、清水さんは安心して日々のリハビリに臨むことができたのです。

チームケア体制



取組み後

再び店先へ、見つけた新しい楽しみ

『二つの喜び』

数か月間のリハビリで歩行機能が改善し、週1回ほど店番ができるようになりました。とはいえ、まだ長時間お店に立つのは難しく、椅子に腰かけての店番が中心。それでも常連のお客さんと顔を合わせ、会話を交わすことは清水さんにとって大きな喜びとなりました。

また、通所リハビリテーションの利用で出会った折り紙は、思いがけず見つけた新たな楽しみとなりました。コサージュ風の花などを制作し、胸元やバッグを華やかにする作品は、利用者の間でも人気を集めています。「性格的に凝り性なところはあります。ひとつのものをコツコツやっていきたい性格なんです」と清水さんは語ります。

折り紙は、暮らしに張り合いを与え、日常を明るく彩る楽しみになっています。

『チームで支え合った歩み』

清水さんを支えたのは、ご家族や常連客に加え、専門職によるチームの力でした。國友さんは、「ケアマネジャーや訪問看護とも細やかに連絡を取り合えたことで、チーム全体で同じ方向を向いて支援できました」と振り返ります。こうした連携が目標の達成にとどまらず、清水さんのさらなる向上心を引き出す言動力にもなっています。



清水さんの状況の変化



友人が営む青果店で働く。家庭では家族の食事に加え、友人の分も含め、毎朝4人分のお弁当を用意。店と家庭が暮らしの中心を担う。

- 令和6年2月 ● 大動脈解離にて入院。手術後、廃用症候群、両下肢に麻痺があり、検査にて脳梗塞も見つかる
- 令和6年4月 ● 白十字リハビリテーション病院に転院後、リハビリ実施
- ◆ 要介護4
- 8月 ● 退院
退院後3か月の短期集中個別リハビリテーションの実施
右足に装具を装着、福祉用具貸与事業所にて、室内移動の安全 確保のために環境調整を行う
自宅環境や青果店までの移動を想定し、歩行訓練の実施
- 12月 ★ ふくおか元気向上チャレンジ参加
歩行の改善を認め、自宅でも家事を行う機会増加
年末年始に感染症を患い、一時入院
- ◆ 要介護1
- 令和7年5月 ● 家から青果店までの50m程度の距離は歩いて行けるように青果店に復帰、週に1回2時間の店番が可能になる
- 令和7年8月 ★ ふくおか元気向上チャレンジ金賞受賞

NEXT STEP

お店に立ち続けること

今後の目標は、青果店での活動時間を少しずつ増やすこと。長時間の立ち作業や片付けなど、まだ課題は残りますが、「お店に立ち続けたい」という強い思いは変わりません。家族のためにも暮らしの中でできることを少しずつ広げていきたいと考えています。「スタッフの方々や家族、常連さんには本当に支えてもらっています。」（清水さん）その姿から、人とのつながりが希望となり、挑戦を続ける力になることが伝わってきます。





第3期

ふくおか元気向上チャレンジ

受賞事業所紹介

第3期（令和6年7月～令和7年6月）において、利用者の要介護度の改善・維持に取り組み、受賞された事業所を紹介します。

※ 参加チームごとに掲載しているため、事業所によっては複数回掲載されている場合があります。
※ ◆は、本事業への参加にあたって、チームの代表を務めた事業所になります。



金賞



訪問看護リハビリステーション Coco

訪問看護

福岡市早良区田村 6-2-47 ファミール辻の花 A102 号 ☎ 092-516-7960 (株) Life&Coco



せふり介護支援事業所

居宅介護支援

福岡市早良区東入部 6-15-9 広橋クリニック 2 階 ☎ 092-872-4600 (医) 楽天堂



松口内科・循環器内科クリニック

居宅療養管理指導

福岡市城南区七隈 1-18-21 ☎ 092-407-5555 (医) 楽生会



デイサービスセンター香楠荘

通所介護

福岡市早良区東入部 2-16-17 ☎ 092-803-2080 (社福) 敬養会



介福本舗

福祉用具貸与

福岡市西区小戸 1-16-24 福祉用具ショールーム ☎ 092-985-0904 (株) 介福本舗



福リハデイケア西都

通所リハビリテーション

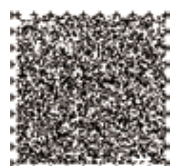
福岡市西区北原 2-8-13 ☎ 092-407-0015 (医) 博仁会



輝松会ケアプランセンター

居宅介護支援

福岡市西区今宿町 583 ☎ 092-805-6815 (医) 輝松会



ミラクルデイサービスはこざき

地域密着型通所介護

福岡市東区馬出 3-12-26 ☎ 092-292-7097 (同) 未楽来



福岡医療団介護支援センター

居宅介護支援

福岡市博多区千代 5-18-1 千鳥橋病院内 ☎ 092-651-9805 (公社) 福岡医療団



ヘルパーステーションたすけ愛の会ひまわり

訪問介護

福岡市博多区千代 5-18-7 FHK ビル 3 階 ☎ 092-643-8517 NPO 法人 福岡地域福祉サービス協会



訪問看護ステーションわかば

訪問看護

福岡市博多区千代 3-3-4 第 15 岡部ビル 2 階 ☎ 092-645-0150 (公社) 福岡医療団



介護ショップたたら

福祉用具貸与

福岡市東区筥松 2-24-19 ☎ 092-612-8811 (株) 福岡保健企画



白十字リハビリテーション病院 通所リハビリテーション

通所リハビリテーション

福岡市西区石丸 3-3-9 ☎ 092-894-6577 (社医財) 白十字会



ケアプランサービスのご清和園

居宅介護支援

福岡市西区姪の浜 3-4-2 シー・ロアー 2 階 ☎ 092-892-3701 (社福) 小石原福祉会



新生堂薬局 訪問看護ステーション

訪問看護

福岡市西区姪の浜 3-5-8 ☎ 092-894-5121 (株) ライフネス



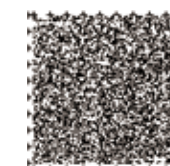
フロンティア 福岡営業所

福祉用具貸与

福岡市東区箱崎ふ頭 5-1-40 センコー福岡第 2PD センター 2 階 ☎ 092-643-8121 (株) フロンティア

組織略称一覧

(株)	株式会社	(医)	医療法人
(公社)	公益社団法人	(社福)	社会福祉法人
(社医財)	社会医療法人財団	(社医)	社会医療法人
(同)	合同会社	NPO 法人	特定非営利活動法人



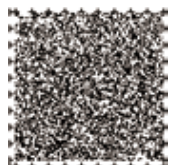


	◆ 寿生苑介護支援事業所 📍 福岡市西区田尻東 3-2705-1 ☎ 092-806-8869 （社福）今山会	居宅介護支援
	寿生苑デイサービスセンター 📍 福岡市西区田尻東 3-2705-1 ☎ 092-806-9003 （社福）今山会	通所介護
	寿生苑ショートステイ 📍 福岡市西区田尻東 3-2705-1 ☎ 092-806-8822 （社福）今山会	短期入所生活介護
	ベストケア西福岡 📍 福岡市西区横浜 3-36-3 ☎ 092-805-8310 （株）エヴァ・ライフ	福祉用具貸与

	◆ 百年橋リハビリテーション病院 通所リハビリテーション 📍 福岡市中央区清川 3-17-11 ☎ 092-534-0157 （社医）青洲会	通所リハビリテーション
	デイサービスセンターイコロの家山王公園 📍 福岡市博多区山王 1-11-26-2 階 ☎ 092-477-3171 （社福）創生会	通所介護
	株式会社ハミングバード 📍 福岡市城南区堤 2-20-6 ☎ 092-407-6095 （株）ハミングバード	福祉用具貸与
	すまいるプラン博多 📍 福岡市博多区吉塚 7-6-29 ☎ 092-621-3817 （医）相生会	居宅介護支援

	◆ 福岡和仁会デイケアセンター 📍 福岡市西区生の松原 1-33-1 ☎ 092-891-7644 （医）和仁会	通所リハビリテーション
	介護サービスステーション福岡和仁会 📍 福岡市西区生の松原 1-33-18 ☎ 092-891-7621 （医）和仁会	居宅介護支援

	◆ Let' s リハ福重 📍 福岡市西区福重 3-34-40 ☎ 092-834-7071 （株）桜十字	地域密着型通所介護
	エフコープ介護サービス福岡西 📍 福岡市早良区次郎丸 4-10-49 ☎ 092-866-5580 エフコープ生活協同組合	居宅介護支援
	フランスベッド メディカル福岡西営業所 📍 福岡市早良区西新 5-15-51-101 ☎ 092-845-2171 フランスベッド (株)	福祉用具貸与



組織略称一覧

(株)	株式会社	(医)	医療法人
(公社)	公益社団法人	(社福)	社会福祉法人
(社医財)	社会医療法人財団	(社医)	社会医療法人
(同)	合同会社	NPO 法人	特定非営利活動法人



	◆ 福リハデイケア西都 📍 福岡市西区北原 2-8-13 ☎ 092-407-0015 （医）博仁会	通所リハビリテーション
	ケアプランサービスシーサイド 📍 福岡市西区今津 3810 ☎ 092-805-7862 （医）永寿会	居宅介護支援
	フロンティア 福岡営業所 📍 福岡市東区箱崎ふ頭 5-1-40 センコー福岡第 2PD センター 2 階 ☎ 092-643-8121 （株）フロンティア	福祉用具貸与

	◆ 百年橋リハビリテーション病院 通所リハビリテーション 📍 福岡市中央区清川 3-17-11 ☎ 092-534-0157 （社医）青洲会	通所リハビリテーション
	訪問看護ステーションひかり 📍 福岡市中央区清川 3-17-11 ☎ 092-521-3377 （社医）青洲会	訪問看護
	フロンティア 福岡営業所 📍 福岡市東区箱崎ふ頭 5-1-40 センコー福岡第 2PD センター 2 階 ☎ 092-643-8121 （株）フロンティア	福祉用具貸与
	サードプレイスケアプランセンター 📍 福岡市東区箱崎 2-10-8 藤野ビル 2 階 ☎ 092-292-6953 サードプレイス (株)	居宅介護支援

	◆ 百年橋リハビリテーション病院 通所リハビリテーション 📍 福岡市中央区清川 3-17-11 ☎ 092-534-0157 （社医）青洲会	通所リハビリテーション
	ケアポート高宮 📍 福岡市南区向野 1-17-25 NTT 筑紫ケ丘ビル ☎ 092-551-3071 テルウェル西日本 (株)	通所介護
	ケアポート高宮 📍 福岡市南区向野 1-17-25 NTT 筑紫ケ丘ビル ☎ 092-551-3085 テルウェル西日本 (株)	居宅介護支援
	ふくおか福祉サービス協会中央支部 📍 福岡市中央区荒戸 3-6-29 クリエイト西公園 6 階 ☎ 092-714-3399 （社福）ふくおか福祉サービス協会	訪問介護
	フランスベッド メディカル福岡西営業所 📍 福岡市早良区西新 5-15-51-101 ☎ 092-845-2171 フランスベッド (株)	福祉用具貸与

◆ ◆ チャレンジ賞 ◆ ◆

◆ ベストケア・デイサービスセンター香椎下原 📍 福岡市東区下原 1-17-14 ☎ 092-672-6333	通所介護	◆ Let' s リハ小笹 📍 福岡市中央区小笹 1-13-11 ☎ 092-753-8152	地域密着型通所介護
アップルハート福岡東ケアプランセンター 📍 福岡市東区唐原 1-2-42-2 階 ☎ 092-672-9670	居宅介護支援	ケアワーク九州本部第 1 ステーション 📍 福岡市城南区長尾 4-5-5 ☎ 092-874-5553	訪問介護
株式会社ナガヨシ 福岡営業所 📍 福岡市東区筥松 1-4-16 日高ビル ☎ 092-292-0145	福祉用具貸与	ケアプランセンター光和 📍 福岡市中央区清川 3-16-26-201 ☎ 092-406-2505	居宅介護支援
特別養護老人ホーム さんすまいる唐原 📍 福岡市東区唐原 7-15-51 ☎ 092-682-2228	短期入所生活介護	とみた内科クリニック 📍 福岡市中央区小笹 4-4-5 ☎ 092-707-2103	居宅療養管理指導
◆ 訪問看護リハビリステーション Coco 📍 福岡市早良区田村 6-2-47 ファミール辻の花 A102 号 ☎ 092-516-7960	訪問看護	◆ ふくおか介福サポート 📍 福岡市城南区神松寺 2-11-10 コーポ寿 201 ☎ 092-775-9800	訪問介護
赤坂介護プラン Nano テックス 📍 福岡市中央区赤坂 1-10-26 重松第 5 ビル 5 階 ☎ 092-711-0157	居宅介護支援	ケアプランセンターやよい 📍 福岡市南区長丘 3-11-18 ロワール長丘 105 ☎ 092-210-8193	居宅介護支援
わかばハートクリニック 📍 福岡市中央区舞鶴 3-9-39 福岡舞鶴スクエア 1 階 ☎ 092-737-8836	居宅療養管理指導	グリーンケア・サービス 📍 福岡市南区野間 2-7-22 ☎ 092-554-2177	訪問介護
◆ 多機能ケアホーム りんごの里 📍 福岡市博多区井相田 3-1-20 ☎ 092-581-6820	小規模多機能型居宅介護	株式会社クローバー 📍 福岡市城南区東油山 2-3-3 ☎ 092-872-7131	福祉用具貸与
ベストケア博多 📍 福岡市博多区板付 1-6-3 ☎ 092-477-8131	福祉用具貸与	長尾病院 📍 福岡市城南区樋井川 3-47-1 ☎ 092-541-2153	訪問リハビリテーション
◆ Let' s リハ荒江 📍 福岡市早良区荒江 3-12-34 セイユービル 1 階 ☎ 092-407-1305	地域密着型通所介護		

※ 参加チームごとに掲載しているため、事業所によっては複数回掲載されている場合があります。
※ ◆ は、本事業への参加にあたって、チームの代表を務めた事業所になります。

